※内容一部抜粋　※共通パート

〇マンション・廊下（夜）

ヒロイン、マンションの廊下を歩く。（ＳＥ：ＦＩ）

ヒロイン、純也の部屋の前で立ち止まりインターホンを押す。（ＳＥ）

少し間が開く。

純也、ドアを開けヒロインを出迎える。（ＳＥ）

【①と⑨の間】

純也　「はーい、お疲れー。どうぞー」

ヒロイン、部屋の中へ入る。

〇純也の部屋（夜）

純也　「将汰はリビングで待ってるから」

ヒロイン「洗面所お借りしてもいいですか？」

純也　「いいよ。俺先にリビング戻ってるね」

ヒロイン、頷き洗面所に向かい手を洗う。（ＳＥ）

リビングの方から純也と将汰の声が聞こえてくる。

【⑭外側：外側を向いて】

純也　「将汰～、来たよ～」

【⑭外側：外側を向いて】

将汰　「はーい」

ヒロイン、リビングへ向かいドアを開く。（ＳＥ）

将汰、ソファに座っている。

純也、床に座っている。

【⑧と⑯の間：やや下】

将汰　「お疲れ～」

ヒロイン「お疲れ様です」

将汰　「思ったより早かったね。

外での待ち合わせだから遅くなるかもって言ってたから」

ヒロイン「想像よりすんなり話がまとまって」

将汰　「あーそうだったんだ。よかったね」

将汰　「あ、てかごめんずっと立ちっぱなしにさせちゃってた。ソファ座る？

俺ズレるよ」

将汰　「（ズレる）」

将汰、ソファで横にズレる。（ＳＥ）

ヒロイン、将汰の横に座る。（ＳＥ）

ヒロイン「お二人はどのくらいにお仕事終わったんですか？」

【⑦：⑯の方を向いて】

将汰　「あ～、純也さんは今日外で仕事だったからそのまま直帰で帰ってきたんですよね」

【②と⑩の間：やや下】

純也　「そう。んで将汰は……でも早かったよね？　ここ来たの。
俺が帰ってきてから、そこまで時間経ってなかった気がする」

将汰　「そうですね～……。やっぱ……仕事できちゃうから……」

純也　「……（小さく噴き出し笑う）」

将汰　「ちょっとやる気出せば、今日の分の仕事なんてね。もうすぐですよ」

純也　「やかましいなぁ……」

将汰　「（笑）」

純也　「てか飯のことなんだけどさ」

純也　「君も今来たばっかりだし、また外に出るのめんどいからウーバーにしようかって
将汰と話してたんだけど、どう？　ウーバーでもいい？」

ヒロイン、頷く。

純也　「よし。おっけー。じゃあウーバーにしよう。将汰もいい？」

将汰　「いいですよ」

純也　「おっけー。じゃあ……えーっと……」

純也、スマホを操作する。

純也　「俺のスマホでいっぺんに頼んじゃうから、先に好きなの選んでいいよ」

純也　「君はどれがいい？　おいで」

ヒロイン、純也の隣へ移動して選び始める。

ヒロイン「んー……どうしよっかな～……」

【②】

純也　「なんでもいいよ～」

ヒロイン「あ、カレーある。カレーにしよ」

純也　「え、カレーいいなぁ。俺もカレーにしよ」

ヒロイン「はい、これで」

純也　「おっけーこれね。（将汰の方へ顔を向けて）将汰どうする？」

【⑥と⑭の間】

将汰　「あー……俺もカレーにしようかな……なにがあります？」

【②】

純也　「これ」

純也、将汰にスマホの画面を向ける。

将汰、ソファで前屈みになりスマホを見る。

【⑦】

将汰　「よいしょ（前屈みになる）。……んぁー……じゃあ、野菜カレーで」

【②】

純也　「ん。じゃあ俺はー……あ、とんかつカレー美味そう。これにしよ」

純也　「えー……っと……よし、注文完了。少々お待ちくださーい」

【⑥と⑭の間】

将汰　「あざますっ」

ヒロイン「おいくらでしたか？」

【②】

純也　「あぁいいよこれくらい。一緒に払っちゃったし」

※純也パート

別の部屋の扉を開ける。（ＳＥ）
ゲームをしている純也を見つける。

○純也の部屋・ゲーム部屋（夜）

【⑨と⑩の間：正面を見ながら】
純也　「（ゲームをしている）……」

ヒロイン、邪魔しないようにドアを閉め、近づいていく。（ＳＥ）

純也　「……んーーーー……あ、これか……ここで、これを使うのか……
あーなるほどねー……」

ヒロイン、純也を呼ぶ。

【②と⑩の間：ヒロインを振り返る：やや下】
純也　「うわびっくりしたぁ～！　びっっくりした（笑）　ごめん気づいてなかった（笑）
おはよう（笑）」

ヒロイン「おはようございます。ごめんなさい驚かして」

純也　「いや大丈夫、俺がゲームに熱中してて勝手に驚いただけだから（笑）」

ヒロイン「これ、新しく出たやつですか？」

【②と⑩：正面を見ながら：やや下】

純也　「そう、出たばっかのやつ」

ヒロイン「……ＲＰＧ系？」

純也　「そうそう、オープンワールドＲＰＧ」

純也　「（ゲームを操作しながら）ストーリー進めたりとか、
クエストとかイベントやったりとか……あ、あと通信対戦とかもできる」

ヒロイン「はーなるほど……結構進みました？」

純也　「んーどうなんだろ。とりあえずキリのいいところまでは行ったね。
（ゲームを落とす）」

純也、ゲームを落とす。（ＳＥ）

純也　「……よし」

ヒロイン「もういいんですか？」

【②と⑩：ヒロインの方を振り向く：やや下】

純也　「うん。キリ良かったし、今日はここまでかな」

ヒロイン「あ、じゃあ……」

純也　「ん？」

ヒロイン「ここ、座ってもいいですか？」

ヒロイン、純也の膝を指さす。

純也　「（少し照れて笑いながら）え……膝……？　あぁ、うん、いいよ」

ヒロイン、純也の膝に座る。

【⑦】

純也　「（ヒロインを抱える）」

ヒロイン「将汰さんと一緒に対戦とかはするんですか？」

【⑧】

純也　「うん、一緒にやろうみたいな話はしてるね」

純也　「面白いよ～って教えたら、将汰も早くやりたいって言ってた」

ヒロイン「最近お仕事忙しそうですもんね」

純也　「そう、なんか案件が被って忙しいみたい。俺も中々顔合わせないし」

ヒロイン「お家に差し入れでも持って行ってあげようかな」

純也　「いや～……やめといたほうがいい。やめといた方がいい」

※中略

ヒロイン「好きです」

純也　「（小さく微笑み）、俺も好き」

【①寄り】

純也　「（優しいキス数回）」

純也　「（優しいキスから徐々に深くなっていく）」

純也　「（唇を離す）……ベッド行く？」

ヒロイン、頷く。

純也　「（椅子から立ち上がる）」

ＳＥ：椅子の軋む音

純也、ヒロインの手を取り寝室へ向かう。（ＳＥ：足音（二つ））

ＳＥ：寝室のドアを開ける（寝室）

【①と⑥の間】

純也　「（ヒロインと共にベッドに上がる）」

ＳＥ：ベッドシーツの擦れる音

※将汰パート

※将汰パート

○純也の部屋・リビング（昼間）

将汰、眠っている。

ヒロイン、将汰の隣で寝顔を眺めている。

【①】

将汰　「……すぅ……すぅ……（寝息）」

将汰　「（寝息）……ん……んん……ん～……（起きる）」

将汰　「（ヒロインに気付き小さく笑う）、なに。どうしたの……」

ヒロイン「寝顔可愛いなと思って」

将汰　「んはは、なにそれ……」

将汰・ヒロイン、一緒に起き上がる。

【①】

将汰　「（体を起こす）……（欠伸）……おはよう……」

【①：左側を見ながら】

将汰　「……あれ？　純也さんは？」

ヒロイン「もうお仕事行きましたよ」

【①】

将汰　「あ、もう仕事行ったのか……あれ、君は？」

ヒロイン「私も今日はお休みです」

将汰　「あ、そうなんだ。休みなんだ」

ヒロイン「はい。あと、純也さんが『ゆっくりしてていいから』って言ってましたよ」

将汰　「あほんと？　じゃあお言葉に甘えて、ゆっくりさせてもらお」

【②：やや下】

将汰　「（横になる）」

ヒロイン、真似して将汰の隣に寝転ぶ。

ヒロイン「お疲れ様です」

【①】

将汰　「（小さく笑う）、ありがとう」

将汰　「（深呼吸）……こうやってゆっくり話すのも、久々な気がする」

将汰　「ちょくちょく顔は合わせてたけど、ゆっくり話したりはできなかったから」

ヒロイン「今日は一緒にゆっくりしましょ」

将汰　「うん、そうだね」

【①：左を向きながら】

将汰　「……ん、んーーーーーーーーー（伸び）……はぁ……」

将汰　「……そういえば今何時？」

【②】

将汰　「（スマホを確認）……あ～……十一時か……」

将汰　「純也さん、今日どのくらいに終わるのかな？」

ヒロイン「そこまで遅くならないと思うって言ってましたよ」

将汰　「そっか……じゃあ夕食は純也さんが帰ってきてからでいっか」

ヒロイン、頷く。

【①】

将汰　「（また横になる）よいしょ、っと……ふぅ……」

ヒロイン「あ。そういえば将汰さんってゲームやったんですか？新作のやつ」

将汰　「あっ、そうだゲーム。忘れてた。まだダンボールからも出してない」

ヒロイン「純也さんはもうやってましたよ」

将汰　「純也さんやってた？　うわぁ～出遅れたぁ～……」

将汰　「まぁでも……俺ゲーム上手いからなぁ……」

将汰　「純也さんのことも、多分すぐ追い越しちゃうから……逆にこのくらいの方がね。丁度いいかも」

ヒロイン「（笑）」

将汰　「（笑）」

ヒロイン「純也さん、私に説明しながらサクサクプレイしてましたよ」

将汰　「説明しながらやってた？（笑）　あはは、出た。純也さんのマルチタスク人間」

将汰　「ゲームしながら話したり、ゲームしながらご飯食べたり、ゲームしてると思ったらちゃんと仕事の確認してたり……」

将汰　「それこそ、まだ俺達が付き合う前、純也さんゲームしながら定期的に君のことめっちゃ目で追ってたからね。と思ったらゲームは普通に進んでるし……」